“元気”は海の贈り物
～仲間と加工と地域活動～

鰺ヶ沢漁協婦人部
部長　三ツ谷栄子

1　地域の概況

鰺ヶ沢町は遥かな時代から海の玄関として賑わい、魚を献上するなど海で栄えた町で、現在は人口１万５千人、獲る漁業からつくり育てる漁業へと転換を図ると共に、日本海の拠点都市を目指し整備されつつある。

また津軽藩発祥の地で、世界遺産の白神山地を控えており夕日のきれいな海岸線等、自然景観に恵まれている。夏は海水浴客、冬はスキー客で賑わい、年間９１万人の観光客が訪れている。

2　漁業の概況

鰺ヶ沢漁協は、平成９年度の組合員数３０４人（正組合員１６６人、准組合員１３８人）で構成され主な漁業は、底建網、沖合底曳き網、スルメイカ一本釣り釣船、 カレイ刺し網等である。

平成８年度の総漁獲高は１，３９１トン、金額で９．１億円に達している。主要漁種はヤリイカが３．８億円 ヒラメ１．３億円、カレイ１億円で、ヤリイカは全体の４２％を占めている。

図－1　位置図

3　婦人部の組織と運営

鰺ヶ沢漁協婦人部は、平成９年度の部員数１７６名各町内ごとの７班体制で、役員は部長１名、副部長２名、会計１名、監事２名、理事１７名で構成されている。

運営費は、会費、漁協や町の補助金、さらには加工販売活動の事業収入で運営している。

婦人部の活動を進めるにあたっては①部員の考え方や意見をよく知る。②研修したことは必ず活動に活かしていく③まず実行を心がけて活動しており、役員会を頻繁に開催し、周知徹底を図っている。

役員会の開催状況　　平成６年度・・・・・１３回
　　平成７年度・・・・・１５回
　　平成８年度・・・・・１２回
　　平成９年度・・・・・　９回　＊平成９年１０月現在

表－1　　鰺ヶ沢漁協 婦人部の主な活動

項目	活動内容	平成5	平成6	平成7	平成8	平成9
環境活動	わかしお石鹸の利用	←→	←→	←→	←→	←→
	海岸清掃	←→	←→	←→	←→	←→
	花壇づくり		←→	←→	←→	←→
加工品づくり	イカの船上干し・イカの沖漬け味付けフジナマコの商品化			←→	←→	←→
	ホッケのすし試作				←→	
	ホッケのすし・イカすし・イカメンチの商品化					←→
直売活動・イベント等	あじがさわ朝市	←→ 個人加入	←→	←→	←→	←→
	あじがさわ夕市・あじがさわ朝市特別セール					←→
	サンフェスタ石川（弘前市）			←→	←→	←→
	仙台ふじさきデパート（仙台市）					←→
	ジャスコ藤崎（藤崎町）				←→	←→
	ミニ国体（鰺ヶ沢町）					←→
	青森空港１０周年記念（青森市）					←→
	ゴルフ大会（鰺ヶ沢町）					←→
	カルチャーロード（弘前市）				←→	←→
	白神フェスティバル（弘前市）					←→
	魚魚（じょじょ）の火祭り（鰺ヶ沢町）		←→	←→	←→	←→
	トライアスロン（鰺ヶ沢町）		←→	←→	←→	←→
	灯籠流し（鰺ヶ沢町）		←→	←→	←→	←→
	文化祭（鰺ヶ沢町）	←→	←→	←→	←→	←→
	鰺ヶ沢海の味覚まつり（鰺ヶ沢町）	←→	←→	←→	←→	←→
	海の味覚まつり（弘前市）		←→	←→	←→	
	ﾌﾟﾘﾝｽﾎﾃﾙＲＶまつり（鰺ヶ沢町）				←→	←→
研修会他	鰺ヶ沢地区くらしの工夫展	←→	←→	←→	←→	←→
	農漁村女性はつらつセミナー		←→	←→	←→	←→
	西海岸地域グルメロード集会	←→	←→	←→	←→	←→
	農水産物加工セミナー					←→
	漁協婦人部幹部研修会	←→	←→	←→	←→	←→
	テレビ「くいしんぼう万歳」の取材協力					←→
	視察研修	←→	←→	←→	←→	←→
	漁協婦人部・農協女性部・生活改善ｸﾞﾙｰﾌﾟとの交流会				←→	←→

※ ←→ は活動（実施）期間

4 活動課題選定の動機

これまで大衆魚や安値の魚は近所に配ったり、海に返したりしてきたが「何とか販売が出来ないものか」と婦人部の多くが感じていたが、平成６年に漁協婦人部幹部研修会に初めて参加し、他町村の婦人部が活発に加工活動を実施していることにショックを受けた。

5 活動状況及び成果

平成６年に部長を引き継ぎ、部員一人一人の意見を活動に反映させ多くの人に参加してもらえるよう役員会を１ヶ月に１回以上開いてきた。

役員会はいつも８０％以上の出席率で、２時間があっという間に過ぎてしまう状況であった。内容としては協議事項以外に各種研修会に参加した部員から必ず報告してもらう等、皆ながわかる活動をモットーに、部員同士の交流を大切にしながら次のような活動を行ってきた。

1)部員の絆を深めた花いっぱい運動

就任早々最初に取り組んだのが花いっぱい運動であった。これまで海を汚さない運動として、わかしお石鹸の利用や海岸清掃を実施してきたが、臨海道路沿いの花壇を「花いっぱいにしよう」と役員会で話し合った。早朝５時から花壇の整備に取りかかったが、花壇とは名ばかりで石ころや雑草、さらには土が硬く、草刈り鎌が壊れるほどの大変な作業であった。その後も花の定植、定植後の草取りと３～４回の作業となり、みんな途中であきらめるのではないだろうか、という不安もあったが無我夢中で取り組んだことで、毎回１００人以上の部員が参加し花壇を作ることが出来た。部員が出れない家庭では、夫達がでて協力してくれた。この大変な作業をみんなでやりとげたことで、部員の気持ちが一つになり「みんなでやれば出来る」という大きな自信につながり、私たちの大きな財産となった。

平成８年５月には、これらの活動が認められ全国漁港協会会長賞を受賞した。

2)加工活動

平成６年に県レベルの漁協婦人部幹部研修に出席し、各地区の活発な加工活動発表を聞き、おおいに刺激を受け、「私たちのこれからの活動はこれだ」と思い、早速役員会で話し合いを続けた。「ホッケ等の安い魚は食べきれず海に捨てている」「夏の暇な時に漁家の働き場がほしい」「新鮮な魚を多くの人に安く食べさせたい」と日頃から思っていることがみんなから出され、平成６年の気持ちが一気に盛り上がった。

その後、漁協や町の水産商工観光課との話し合い、更には「町長と語る会」で水産物加工活動をぜひ実現したい旨を述べた。平成７年７月には町と漁業協同組合の共同事業で待望の加工施設が完成した。

最初に取り組んだ加工品はイカの「船上一夜干し」「沖漬け」「塩辛」と「味付けフジナマコ」でその後、徐々に加工品目を増やし現在は、「イカのすし」「イカメンチ」そして「ホッケのすし」が加わった。

ホッケのすしが商品化され、近隣の卸業者から注文が来るようになってようやく大量販売の見通しが立てられるようになった。おかげさまで今年のホッケのすしは、早々と完売する事が出来た。

手探りで加工活動を開始した頃は、加工の日当を十分払えず、食事をするだけであ

ったり、大変な作業については１，５００円～２，０００円位払う、といったボランティア的な活動であったが、部員のみなさんは、加工や出張販売の経験を楽しみながらたくさん参加してくれた。

加工活動２年目の平成８年からは加工に従事する部員を減らし、１時間あたり５５０円の日当を支払うようにし、平成９年からは、１時間あたり６００円を支払うことが出来るようになった。

加工活動をする上で最も工夫していることは、①部員一人一人の特技や特徴を捉え配置すること②若い部員、年輩の部員が一緒になって作業することで、お互いを理解したり技術の交換ができるようにすること③日当を十分に払えなかった時から参加している部員を大事すること。などである。

特に②については若い部員、年輩の部員双方から喜ばれている。

3)朝市からスタート、であい・ふれあい産直活動で魚食普及

平成６年から漁協婦人部として朝市に参加し、販売することの楽しさと難しさを体験し、販売活動の第１歩を踏み出した今では、お互いにすっかり顔見知りとなり海産物と農産物の交換が出来るまでになった。

また、オープニングには、漁協婦人部がホッケのすりみ汁やつきたての餅をサービスし、多くの消費者から喜ばれた。

平成９年の朝市打ち合わせでは「朝市は時間が早くて行けない」という声があったため、夕市の実施を提案し毎週朝市と夕市を開催することになった他に、お盆、十五夜、つけ物セールも開催し、町民に定着するようになった。

平成７年には津軽石川農協の要請で、サンフェスタ石川と産直交流が始まり、第１、第３日曜日の月２回出店し、農村地域に新鮮な海産物を供給し喜ばれている。

さらに平成９年からは、日曜日毎となりまた、１０月からは浪岡町のアップルヒルとの産直も始まるなど、いっそう気持ちを引き締めて取り組んでいる。

この他に弘前市のカルチャーロード、白神祭り、鰺ヶ沢プリンスホテルのイベントから声がかかると出来るだけ対応するようにしている。

地元においては、「魚魚(じょじょ)の火祭り」「トライアスロン」「灯籠流し」「文化祭」「海の味覚祭り」のイベントにおいても食事づくりや加工品の即売を実施している。

海の味覚祭りは魚に親しんでもらい消費拡大を図るため、私たちが一番力を入れている事業であるが近隣町村と共同事業を実施している他に、地元でも漁協青年部との共催で開催している。食べきれないくらいの魚料理を提供し、趣向を凝らし参加者によるセリやイカつりコーナーを設けるなど、多くの町民で賑わい、毎年楽しみにされている行事である。

表－２　直売活動の実施状況

項目／年度	朝市	夕市	特別セール	木造夕市	サンフェスタ石川	町内イベント	町外イベント	合計
平成７年	１８回	－	－	－	１７回	５回	５回	４５回
平成８年	１８回	－	－	－	１７回	８回	１０回	５３回
平成９年	１７回	２１回	３回	５回	２７回	１１回	１７回	１０１回

表－3　販売額の推移

項目＼年度	平成７年	平成８年	平成９年
朝市.夕市.特別ｾｰﾙ	８２０千円	８４５千円	１，５２６千円
サンフェスタ石川	３，０００千円	３，３８５千円	４，０４６千円
木造夕市	－	－	２２０千円
イベント	５００千円	１，９７６千円	２，０６５千円
地元訪問販売・部員への販売・その他	８００千円	１，０５１千円	３，５００千円
合計	５，１２０千円	７，２５７千円	１１，３５７千円

4)農家と共に

「アンコウ鍋の実演が始まります」との会場のアナウンスと共に、漁協婦人部によるアンコウの解体、アンコウ鍋の実演、その後試食を始めると、あっという間に鍋が空になった。

この光景は鰺ヶ沢町、深浦町、岩崎村の女性団体と協力し、毎年２月に開催されている「くらしの工夫展」での様子である。農家と漁家の女性が最も元気の出る行事である。

また、農家と共に学習する場として「農漁村女性はつらつセミナー」、「グルメロード集会」そして平成９年度からは「農水産物加工セミナー」に率先して参加し、商品技術の向上に努め、農家とのふれあいを求めながら活動を展開している。

6 波及効果

部員の話し合いを基にしながら、平成７年度から始めた加工活動は、徐々に販売額が向上するようになり、他産業に従事していた部員が、平成９年から加工活動に従事するようになった。

近年どこを向いても“厳しい”の一言だが、部員一人一人が活動を理解し、前向きになったことで私たち漁協婦人部の活動は「元気がある」と町民から言われるようになった。

また他団体や、他町村からも交流や、出張販売の依頼が入るようになり、ますます張り切っている。

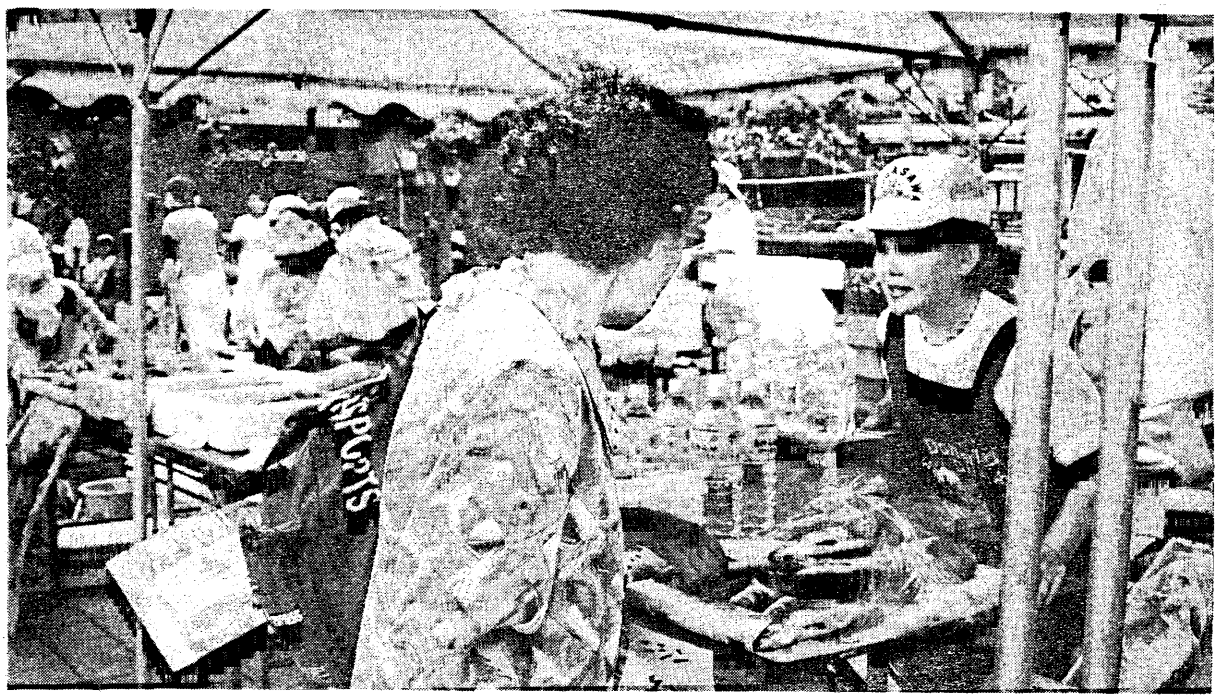
7 今後の課題

1)　現在商品化されている「ホッケのすし」の販売ルートが確立されつつある。今後は更に加工量を増やしていく方法として、漁家が個々に作った「干しホッケ」を高く購入し、漁家から「加工所があって良かった」と言われる加工活動を展開していきたい。

2)　出張販売は弘前市の「サンフェスタ石川」を中心に活動を展開していたが、平成９年１０月からは浪岡町のアップルヒルとの産直も始まることから、加工に従事する部員の安全性を考えた制度の導入（怪我や事故等）、部員の話し合いをより密にし、意志の疎通を図っていく必要がある。

3)　海は私たちの生活の糧であり宝物であることを肝に銘じ、海を汚さない運動を広げていきたい。

鯵ヶ沢漁協婦人部の活動状況



白神フェステバルにて　“　いらっしゃいませ　”

農家と共に朝市　“　安いよ　安いよ　”

私たちの活動は・・・・

見違えるような
花壇になりました。

森を育てよう

みんなで！！